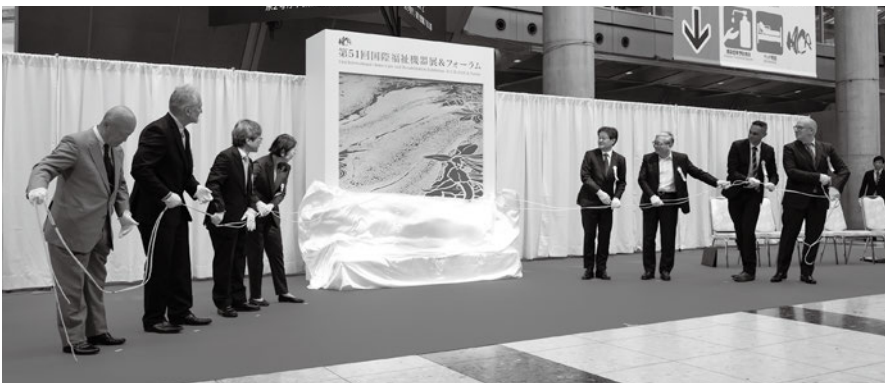


1 オープニングセレモニー

10月2日(水)9:40～



東京ビッグサイト東2ホール前ギャラリーにて、オープニングセレモニーを開催しました。主催者である村木厚子全国社会福祉協議会会長より、出展企業・団体や来場された方々への感謝の意を表するとともに、H.C.R.2024の開会を宣言しました。

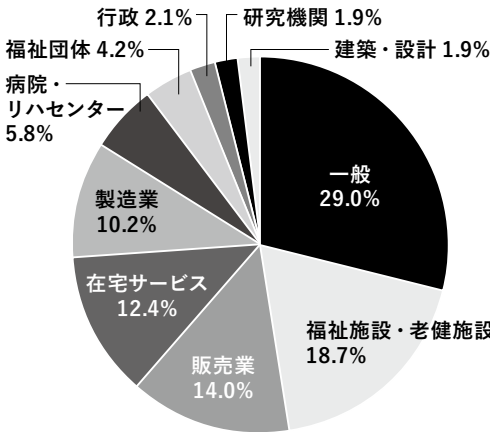
その後、厚生労働大臣の代理として野村知司社会・援護局障害保健福祉部長からの来賓挨拶に続き、海外から来日した来賓等を交えた除幕式が執り行われました。H.C.R.2024のビジュアルデザインをモチーフにしたオブジェが披露され、華やかに開幕しました。



村木厚子 全国社会福祉協議会会長

2 来場者 12万人超え

来場者数は、会期3日間で延べ120,041人にのぼりました。来場者の業種の割合では、昨年同様、一般が29.0%と最も多い結果となりました。次いで福祉施設・老健施設が18.7%であり、さらに続いて販売業14.0%、在宅サービス12.4%、製造業10.2%、の順となりました。来場者数は昨年から約7千人増えていますが、福祉施設・老健施設が3ポイント増加したのが特徴のひとつです。



3 出展社数 402社・団体

出展社数は、リアル展・Web展あわせて国内外から402社・団体が出展しました。国内からは352社・団体、海外からは10か国2地域より50社・団体の出展がありました。

国名	社数
日本	352
アメリカ	6
中国	17
台湾	10
韓国	6
ドイツ	2
スウェーデン	1

国名	社数
香港	2
フランス	1
イタリア	1
オランダ	2
イギリス	1
デンマーク	1

■感謝状贈呈式

10月2日(水)14:30～

出展社のなかから、15回目の出展を迎えられた9社に対し、古都賢一保健福祉広報協会理事長より感謝状の贈呈を行いました。

感謝状贈呈出展社(50音順)

- ◎アイホン株式会社
- ◎株式会社テラモト
- ◎三協エアテック株式会社
- ◎トクソー技研株式会社
- ◎株式会社シモヤマ
- ◎株式会社レイクス21
- ◎一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
- ◎独立行政法人労働者健康安全機構
- ◎田辺プレス株式会社
- 吉備高原医療リハビリテーションセンター

■製品別出展社

H.C.R.2024出展社のうち、取り扱い製品カテゴリー別の社数は以下の通りです。

移動機器(車いす等)	トイレ・おむつ用品	日常生活支援用品
手動車いす	ポータブルトイレ	自助具
車いす関連用品	便器、便座	障害者スポーツ・レクリエーション用品
電動車いす	防臭剤、消毒剤	介護関連用品
自転車	トイレ関連用品	日常生活支援用品(その他)
介助車	おむつ関連用品	フレイル介護予防関連機器
電動三輪・四輪車	衣類・着脱衣補助用品	介護等食品、調理器具
移動機器(杖、歩行器等)	衣類	食事用具、食器
歩行者、歩行補助車	靴	調理器
杖	コミュニケーション・ソフトウェア機器	高齢者・障害者向け食品
移動機器(リフト等)	福祉電話・FAX、携帯会話補助器	福祉施設環境設備・用品
移乗補助機器	視覚障害者用誘導システム	福祉施設建築、福祉施設用床材・壁材
床走行リフト	障害者用OA機器・ソフトウェア・操作補助具	洗濯機、乾燥機、掃除機、脱臭機
固定式・据置式リフト	コミュニケーション関連ロボット	いす、座位保持・立ち上がり補助用品
介助・歩行補助ロボット	コミュニケーション・ソフトウェア機器(その他)	家具、テーブル、洗面台
福祉車両、関連機器	障害者用AV機器	キッチン
障害者用自動車運転装置	センサー・見守り機器	介護職員用衣類
車いす等用福祉車両	緊急通報システム	福祉施設環境設備・用品(その他)
入浴用特殊車両	見守り機器	防災・避難用品
ベッド用品	緊急通報・見守り装置	自家発電・蓄電装置
ベッド	建築・住宅設備	再資源・水浄化処理機器
マットレス、床ずれ防止製品	スロープ	感染症等予防用品
サイドテーブル	手すり	空気清浄機、加湿器、消毒器
介護用シーツ	エレベーター	感染症等予防用品
ベッド用品(その他)	段差解消機	福祉サービス向け経営・ケア管理システム
入浴用品	階段昇降機	福祉事業関係コンピュータシステム
浴槽	建築・住宅設備(その他)	出版、福祉機器情報
入浴用チェア	リハビリ・介護予防機器	福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト
滑り止め用品	歩行等訓練機器	総計(のべ)
浴槽台	リハビリ用教材・機器	513
入浴用リフト	筋力トレーニング機器、身体機能訓練機器	
入浴用品(その他)	口腔ケア用品	

(※)H.C.R.Web2024掲載情報より抜粋

4 国際シンポジウム

第1部:「アジアの高齢化の現状と高齢者の自立生活に向けた支援」

日本、韓国、台湾、タイの4か国より、高齢化をめぐる課題と高齢者の自立を支えるための諸制度や支援策、取り組みの最新動向が紹介されました。



日本 「日本の高齢化と在宅福祉の政策動向」 ～高齢者福祉の現状、課題、そして未来展望～ 柿本 貴之 氏

◇社会福祉法人陽谷福祉会 理事長、全国社会福祉法人経営者協会 高齢者福祉事業経営委員長

柿本氏は、日本の総人口は減少傾向にある一方で、65歳以上の高齢者の人口は増加しており、経済的持続可能性の確保と早急な対策の必要性を訴えました。特に、多くの高齢者が自宅での介護を希望している現状を踏まえ、訪問介護やデイサービスといった「在宅福祉」の強化が必要と述べました。

韓国 「韓国の高齢化の傾向と高齢者住宅政策、介護サービス」 鄭 茂晟(チョン・ムソン) 氏

◇韓国社会福祉協議会(MNCSW)副会長、現代車財団 理事長

鄭氏は、韓国は急速に超高齢社会に移行しており、政府は2024年7月に「人口国家非常事態」を宣言したと説明しました。介護施設を含む高齢者向け住宅は、低所得者向けと高所得者向けに偏っており、所得レベルに基づく多様な住宅タイプを充実させていく必要があると述べました。また、ケアの供給不足や移動支援といった課題があるなか、AI技術の活用にも取り組み始めていると紹介しました。

台湾 「台湾における長期介護政策」 陳 盈秀(チェン・インシュー) 氏

◇台湾衛生福利部 専門委員

陳氏は、台湾は2026年には65歳以上の人口が全人口に対して21%を超える「超高齢社会」に突入することが確実視されていると説明。長期介護政策(LTC2.0)では、「ケアの継続性」「人が中心」「地域に根差す」の3つを原則としており、サービス利用者は年々増加していること、介護職員の数 は2016年に比べ4倍の9万7000人となっていることなどを紹介しました。

タイ 「タイの高齢化の現状と自立を目指す高齢者支援」 ソムラック・リン 氏

◇社会開発促進ボランティア協会(VDA)所属

ソムラック氏は、タイでは60歳以上を高齢者と定義しており、2033年には総人口の28%を占めると説明。高齢者を自立度に応じて3つにグループに分けており、そのうち日常生活をしっかりと行うことができる「ソーシャルバウンドグループ」が96%であることを紹介しました。また、福祉手当の支給など、高齢であっても豊かに暮らしていける制度がつけられていると話しました。

第2部:「アジア各国の社会福祉事情と修了生の活動」

全国社会福祉協議会が実施している「アジア社会福祉従事者研修事業」が40周年を迎えるにあたり、修了生75名が来日。そのなかから、マレーシア、フィリピン、スリランカ、インドネシアで福祉課題に即した活動を展開している修了生が活動報告を行いました。

<全社協アジア社会福祉従事者研修修了生 発表者>

第1部 成氏(韓国)、吳氏(台湾)

第2部 スティーブン氏(マレーシア)、ジュリエット氏(フィリピン)、セートウンガ氏(スリランカ)、アニサ氏(インドネシア)

5 セミナー

福祉機器利用者や福祉・介護関係者にとってのサービスの質の向上、経営、制度改革など課題となっているテーマについて、最新情報を提供するセミナーを開催しました。

セミナーA

①人生100年時代を豊かに生きるフレイル予防

藤原 佳典氏

(東京都健康長寿医療センター研究所 副所長)

10月2日(水)
11:00~12:00



②「合理的配慮」をより身近に～アクセシブルデザインから見えてくる共生社会～

星川 安之氏(公益財団法人共用品推進機構 専務理事)

10月2日(水)13:00~14:00

③介護現場のリスクマネジメント～事例から学ぶ事故防止対策～

井上 ルミ子氏(Care styles consulting)

10月2日(水)15:00~16:00

④認知症対策の国際動向～スウェーデンと日本の事例から～

※講義の主な内容は次号に掲載します。

10月3日(木)10:30~12:00

<挨拶>

・アンナ・テニエ氏(スウェーデン高齢者・社会保険担当大臣)

・村木 厚子氏(社会福祉法人全国社会福祉協議会 会長)

<事例報告>

・栗田 圭一氏

(東京都健康長寿医療センター 認知症未来社会創造センター長)

・イェンニ・ワダ氏

(スウェーデン保健社会省 社会福祉・障害政策部副部長)

※チューター: 塚田 典子氏(日本大学商学部 教授/保健福祉広報協会 理事)



アンナ・テニエ氏

⑤八尾市らしい連携のかたち おせっかい日本一をめざして

・岡本 由美子氏(八尾市役所 健康福祉部次長兼福祉事務所長)

・石川 真規氏(社会福祉法人八尾市社会福祉協議会 地域福祉課長)

・荒井 恵一氏(社会福祉法人八尾隣保館 理事長)

※進行・コメンテーター: 山下 興一郎氏

(社会福祉法人全国社会福祉協議会 中央福祉学院 主任教授)

10月4日(金)
10:45~11:45

セミナーB

従来の選び方・使い方・セミナーから一新し、介護支援専門員等の専門職向けの「福祉機器の利活用ステップアップ講座」を開催しました。在宅空間をイメージしたステージを使って、7つのテーマのもと講師による実演を交えた講義は、各テーマとも盛況で、延べ1,200名が参加しました。



「総論(介護にかかわる専門職に求められる利用者の自立・生活に即した福祉機器の選択と利活用の知識)」

石山 麗子氏(国際医療福祉大学大学院 教授)

10月2日(水)11:00~12:00

「食事(嚥下・食事姿勢)」

山口 優子氏(言語聴覚士)

10月2日(水)13:30~14:30

「移動(杖・歩行器)」

加島 守氏(高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士)

10月2日(水)15:30~16:30

「睡眠(起居・ポジショニング)」

加島 守氏(高齢者生活福祉研究所 所長/理学療法士)

10月3日(木)10:30~11:30

「排泄」

牧野 美奈子氏(NPO法人日本コンチネンス協会 理事)

10月3日(木)13:30~14:30

「移動(車いす)」

堀家 京子氏(公益財団法人武蔵野市福祉公社 作業療法士)

10月3日(木)15:30~16:30

「住宅改修」

橋本 美芽氏(東京都立大学大学院人間健康科学研究科 准教授)

10月4日(金)11:00~12:00

グローバルセミナー

～高齢者ケアに活かす車いすシーティング～

10月4日(金)13:00~14:30

アレックス・カマドゥ氏(ISWP事務局長)

クリティカ・カンダベル氏(ISWPプログラムマネージャー)

※進行・コメンテーター: 加島 守氏

(日本車椅子シーティング財団副代表理事/

保健福祉広報協会評議員)



アレックス・カマドゥ氏



WHO(世界保健機関)の協力・連携組織であるISWP(国際車椅子専門家協会)から、事務局長のアレックス・カマドゥ氏、プログラムマネージャーのクリティカ・カンダベル氏の2名を講師として招き、シーティングに対する考え方や、同組織が実施する車いすのトレーニングプログラムなどについて講演していただきました(講演の主な内容はNEWS No.3に掲載します)。

セミナーC

スマートフォンやパソコンなど身近にあるICT機器などの活用によって、障害のある人や高齢者の自立生活に活かすアイデアや工夫を紹介しました。また、AIによる最新技術などの紹介や、学校や職場などの場面においてのICT活用方法等、ICTにかかる10の様々なテーマのもと、セミナーを展開しました。



セミナーPlusOne

①福祉施設の音環境を考える～ハイパーソニック・エフェクトのもつ可能性～

本田 学氏 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第七部 部長

人類の遺伝子を育んだ熱帯雨林の音環境には耳に聞こえない20kHz以上の超高周波に満ちており、超高周波を豊富に含む音が、深部脳を活性化させ「こころ」と「からだ」にポジティブな効果をもたらしていることを示しました。そのうえで、福祉施設での実証実験を通して認知症の興奮症状や不穏症状などにも一定の効果があることも報告がなされました。

②ふくし未来塾プレゼンテーション～福祉現場の次世代のリーダーが描く未来像～

[発表者]

西島 和秀氏 社会福祉法人慈愛会(福岡県)

水口 浩一氏 社会福祉法人みなと舎(神奈川県)

[進行・コメンテーター]

山下 興一郎氏 社会福祉法人全国社会福祉協議会 中央福祉学院 主任教授

「ふくし未来塾」とは、全国社会福祉協議会が掲げる“福祉ビジョン2020”の推進事業として、社会福祉法人における令和の共生社会を創造するトップリーダーを育成するプロジェクトです。

第3期生から2名の代表者が、ふくし未来塾での活動を通して所属法人や地域の課題を見つめ、地域の居場所やコミュニティづくりの事例について発表しました。

SGWC2024 ソーシャルグッド・ウェルフェア・カンパニー・サミット～未来を変えるissue への挑戦、その価値の輪を広げよう!～

[運営]

全国社会福祉法人経営青年会

[登壇者]

村木 宏成氏 全国社会福祉法人経営青年会 会長

櫛田 啓氏 社会福祉法人みねやま福祉会 常務理事

坂下 美渉氏 特定非営利活動法人あきた結いネット 理事長

垣内 俊哉氏 株式会社ミライロ 代表取締役

吉藤 オリイ氏 株式会社オリイ研究所 所長

平林 景氏 一般社団法人日本福祉医療ファッション協会 代表理事

大津賀 花音氏、笹沢 杏有深氏 長野県上田千曲高校 生活福祉科

佐藤 舜氏 大阪府桃山学院大学 FIOREI

それぞれの団体や立場で実践されている社会課題へのチャレンジについてのプレゼンテーションと、登壇者総勢9名による熱いトークセッションが交わされました。

個々に感じている課題の根本の提起や、福祉現場での日々のかかわりにとどまらない、クリエイティブな発想や身近なつながり、技術の応用など、困りごとに対するクリエイティブなアイデアや実践が次々と紹介され、issueを乗り越え生き生きと過ごすことのできる未来の社会を想起させる時間となりました。

6 H.C.R.特別企画

ポジティブラジオHCR

リアル展示会の場内の様子や出展企業・企画の紹介、来場者の声など、開場時間いっぱい様々なプログラムを用意し、会場の特設配信ブースより毎日生配信でお届けしました。各日午後にはスペシャルゲストをお招きし、H.C.R.でしか聴くことのできない貴重なトークで配信を盛り上げていただきました。また、おたよりの投稿も紹介し、来場者の福祉に対する想いに触れるとともに、会場に来ることのできない方も参加できる、リアルとオンラインをつなぐ機会を提供しました。

ラジオブース前には配信を楽しみにされていた方や、初の試みとなるラジオの珍しさに興味を示された方など、終始多くの方で賑わいをみせました。



エンジョイアクティブゾーン

協力:(一社)日本障がい者サッカー連盟、(一社)日本電動車椅子サッカー協会、(NPO)日本ブラインドサッカー協会、日本ミニフットゴルフ協会(株)、(一社)日本ウォーキングフットボール連盟、(株)ePARA、(一社)日本モルック協会

電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー、ミニフットゴルフ、ウォーキングフットボール、バリアフリーe-Sports、モルックの体験を実施しました。

電動車椅子サッカーの試合では、選手たちの白熱したプレーが繰り広げられ、間近で観戦した来場者の歓声があふれました。

その他、バリアフリーe-Sportsにまつわるトークショーも行われ、共生社会や障害者の社会参加、共創をテーマに、障害当事者やさまざまな団体が登壇し理解を深めました。



電動車椅子サッカーの試合



障害にあわせて工夫されたコントローラーを用いてゲームを楽しむ来場者



モルック体験



トークショー

モノづくりアートつくしラボラトリー Produced by SHIBUYA FONT

(一社)シブヤフォントが原宿で運営する「シブヤフォントラボ」がH.C.R.に出張！アートを介して障害のある人と触れ合い、唯一の制作体験ができる、モノづくり体験企画を実施しました。日ごとに代わる制作企画や、対話でみるアート鑑賞など、多様なブースを設置しました。カラフルなブースの裏には障害者就労支援施設を再現し、多くの来場者に体験いただくことが出来ました。



福祉機器開発最前線

企業や研究機関による最先端の研究、製品、技術を7社・団体の協力を得て展示しました。

今年は、3Dフードプリンターで生成される介護食や視覚を使わずに周囲環境を認識できるデバイスなど、まさにクリエイティブな未来を体現する製品が並びました。福祉機器の最新情報を求める来場者と、今後製品の普及や改善に取り組む出展社との有益な交流の場となりました。



“もしも”に備える防災展

災害時に活用できる製品を一挙に展示しました。実物の展示だけでなく体験や試食も行われ、福祉×防災の知識を知る機会となりました。

また、令和6年能登半島地震における災害ボランティアやDWATなどの取り組みもパネルで紹介し、被災地で行われている災害支援の現状を発信しました。



【段ボールベッド】 QUICK BASE 他 段ボール製品多数	(株)エスパック
【住空間】 屋内用インスタントハウス	名古屋工業大学北川啓介研究室
【非常食】 長期保存食ライフスープ	(株)ベジタルアドバンス
【非常用浄水器／災害支援車】 「コックン飲めるゾウ」シリーズ／ 「コックンレスキュー」	(株)ミヤサカ工業
【災害用トイレ】 ラップポン・トレッカー	日本セイフティー(株)

ふくしの魅力発見ゾーン

若者が福祉へかかわるきっかけを提供するために、福祉業界で働く若手を中心とした17名の職員自身の経験や思いをありのままに語るエピソードと写真を巨大パネルで展示しました。

保育士、言語聴覚士、障害者支援など、さまざまな職種の実体験を通じて福祉の現場のリアルな姿に触れ、福祉の多様な役割と働き手に込められた思いを発信することができました。

また、上記エピソードをまとめた冊子「CREATIVE～17人の若者が語る、福祉のリアルな経験と心の声～」を会場内で配布し、1,000名を超える方の手に届けました。



子ども広場 協力:(福)横浜市総合リハビリテーションセンター、東京都

障害のある子ども向けの様々な機器の総合展示とともに、専門家による療育、リハビリ相談を実施しました。今年はスマホひとつで操作できる「スマートルーム」や、情報保障を体験できる「ろう学校の模擬教室」を設置し「日常の活動」に応じたデジタル機器の展示・体験も行いました。また、「座位保持」をテーマに車いすクッションの展示、クッションに座るときはどこに圧力がかかるかわかる座圧測定、車いすサッカー体験、ミニセミナーの開催など、子どもに向けた製品・情報が集まるブースとなりました。



福祉用具相談 ～福祉機器・自具具のお困りごとはこちら！～

協力:(一社)日本作業療法士協会、(NPO)自具具の部屋

作業療法士等の専門家による、日常生活に係る福祉機器の相談対応を実施しました。あわせて、福祉機器の中でも最も身近な自具具の展示、3Dプリンターによる制作事例やその場で作れる自具具制作講習会を行いました。



もっと知って!ほじょ犬 協力:(一社)日本身体障害者補助犬学会



障害のある方の自立と社会参加、そして生活を助けるパートナーであるほじょ犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)について、パネル展示や専門スタッフによる説明とともに、ほじょ犬の普段の働きの様子を紹介しました。

セルフカフェ&ショップ 協力:(NPO)ヒールアップハウス 晴れ晴れ

障害者就労支援事業所利用者がプロデュースし、コーヒーやパン等の軽食や、飲み物の販売を行いました。また、被災地での障害者就労支援施設・事業所で生産されたSELP製品なども販売しました。



7 Web展 195万ビューを達成

H.C.R.2024のWeb展では400を超える出展社情報と、1,000点以上の製品情報を掲載しました。

各製品ページにおいてはカテゴリー検索、機能検索、キーワード検索の3つの検索項目を設け、来場者が求める製品にたどり着きやすいページ構成としました。また、リアル展で行ったセミナー等のアーカイブ映像は、Web展の開催期間と同じく10月31日まで公開しました。

なお、福祉機器製品情報の発信に資することを目的として、出展社検索および製品検索機能については3月31日(月)まで継続して一般公開中です。



閲覧はこちらのQRコードより↓



8 出展社プレゼンテーション

製品紹介や事例紹介、機器導入に向けたポイント解説など、出展社23社がプレゼンテーションを実施しました。

また、その様子を、Web展にてアーカイブ映像として公開しました(一部出展社を除く)。

9 広報・PR活動

H.C.R.2024の開催を広く周知するため、出展社等関係者や福祉関係施設・団体、これまでに来場いただいた方と登録者などへポスター約4,500枚、DMリーフレット約30万通作成するとともに、メールマガジン約6万件を配信しました。また、業界紙への広告掲載を行ったほか、H.C.R.の開催PR動画の制作とともに、本会FacebookとX(旧Twitter)のSNSを活用した広報活動を行い、H.C.R.開催情報も含め様々な情報の発信を行いました。

さらに、マスコミ関係者などに向け、保健福祉Newsの発行やH.C.R.プレスリリースの配信を通じて、関連記事情報の提供や取材の案内を行ったところ、会期中にテレビ局などを含む180件を超えるプレス取材がありました。

	テレビ	新聞・雑誌	Web	件数合計
会期前 (～10/1)	0件	17件	134件	151件
会期中・会期後 (10/2～)	3件	3件	25件	31件
合計	3件	20件	159件	182件

10 来場・移動支援や情報保障の取り組み

会場内の移動に不安がある来場者に対して「車いす・移動支援機器貸出コーナー」を設置し、6社から計33台の車いす等を貸し出しました。

また、障害のある方や歩行に困難がある方などを対象とする専用駐車場を確保するとともに、国際展示場駅と会場をつなぐシャトルバスを運行し送迎を行いました。

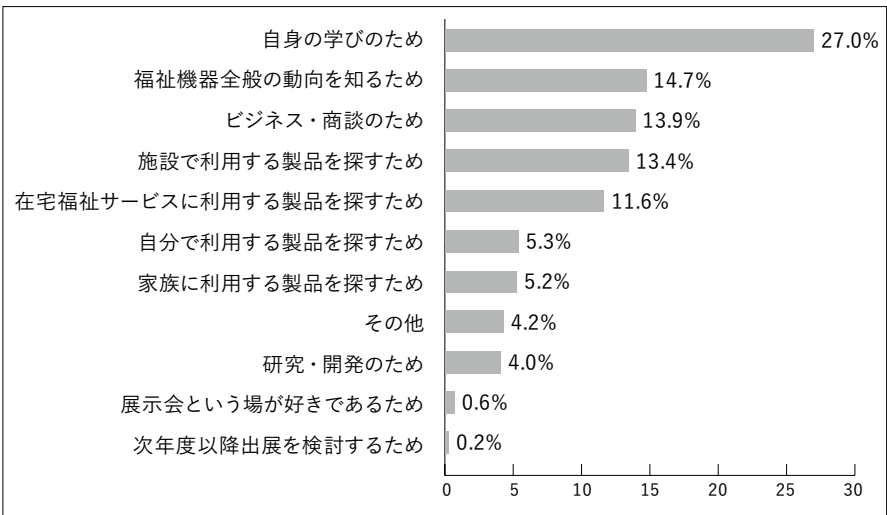
手話通訳とガイドヘルパーの常時配置に加え、自身のスマートフォンを利用して手話通訳者を介して出展社からの説明を受けることができる「遠隔手話サービス」を行いました。

その他、スタンプラリーや会場マップ、プッシュ通知など、展示会場内を快適かつ楽しく回れるアプリも用意し、累計36,689件のダウンロードを得ました。

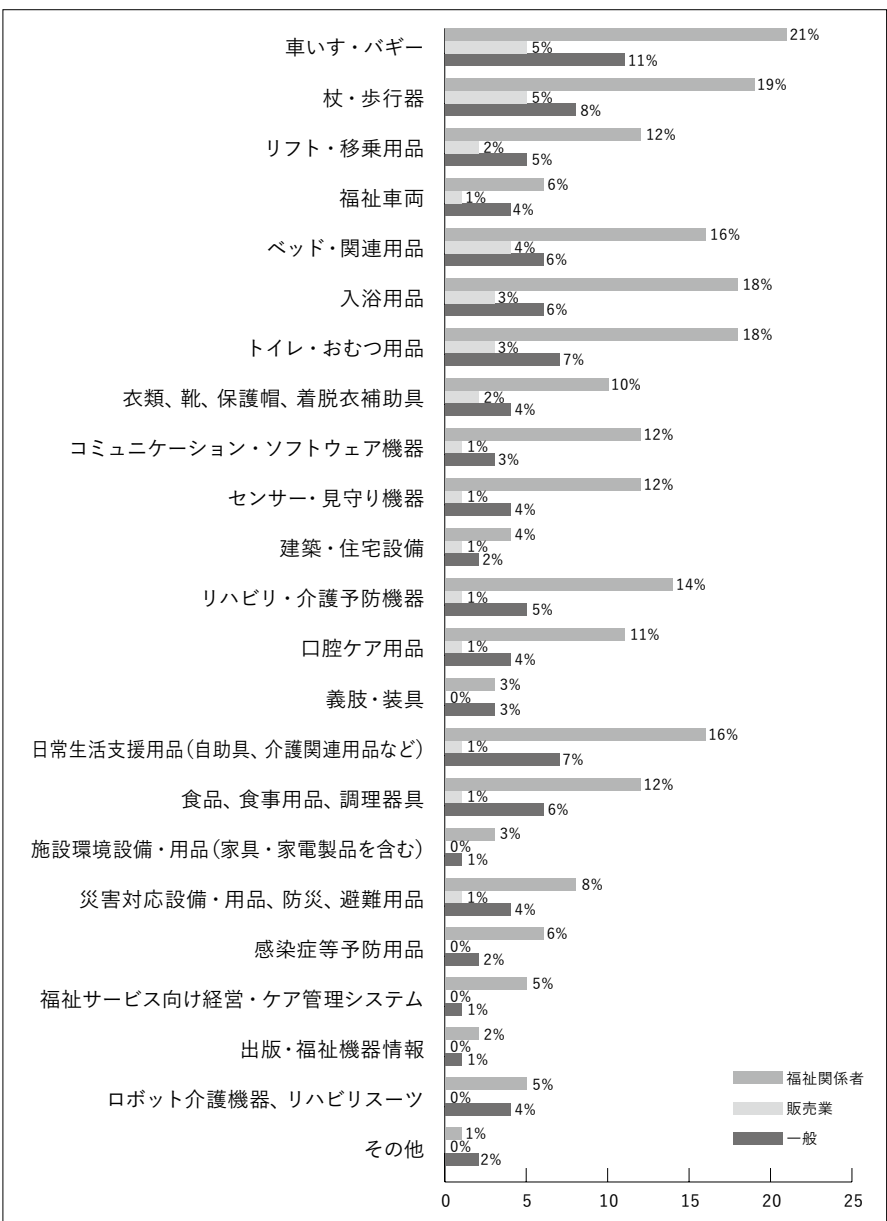
11

来場者アンケート結果 [回答数 4,539件]

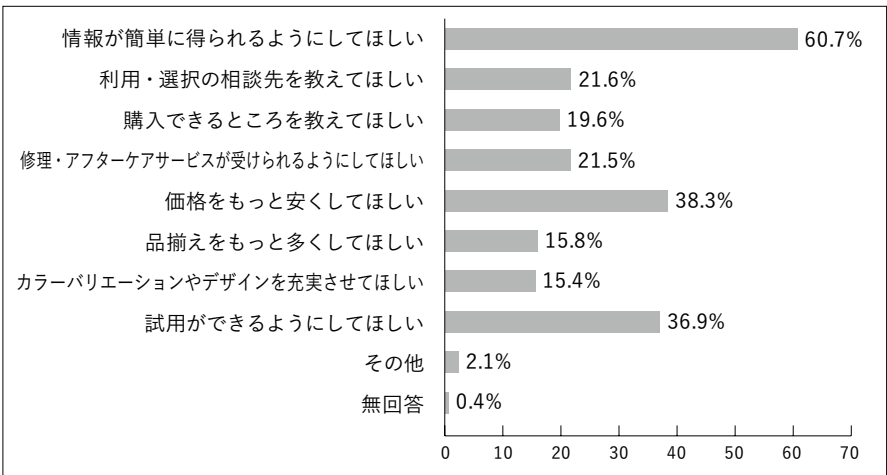
①H.C.R.2024への来場の目的[複数回答]



②お探しの製品の種類[複数回答]



③福祉機器の利用についてのご要望[複数回答]



④福祉機器製品の開発や販売に係るご意見・ご要望 (フリーアンサーを一部抜粋)

- ・新商品や高額なものは、レンタルで試せると助かります。
- ・施設だけでなく、個人が利用しやすいような商品の開発をお願いします。
- ・ニーズがあるか分からないような先進的な開発品は、試したり、購入できるように、クラウドファンディングをしてほしい。
- ・進行性の方のリハビリ用具についてもっと知りたいです。
- ・電動も含め、デザイン性に優れた車いすや義肢、装具をもっと増して欲しい。
- ・現場の課題を聞き入れてくれて、メーカー様の取り組みの現状も知ることができました。
- ・それぞれの企業さんが患者さん・利用者さんの事を一番に考えて、安全安心で、その人らしさを尊重した用具が多く、大変興味を持ちました。
- ・毎年「最新」製品を楽しみにしています。今後も画期的な新製品を期待しています。
- ・介護にとどまらない、ボーダーレスな商品を希望します。
- ・介護食の試食があるとよい。
- ・デイサービスで利用できる物を増やして欲しい。

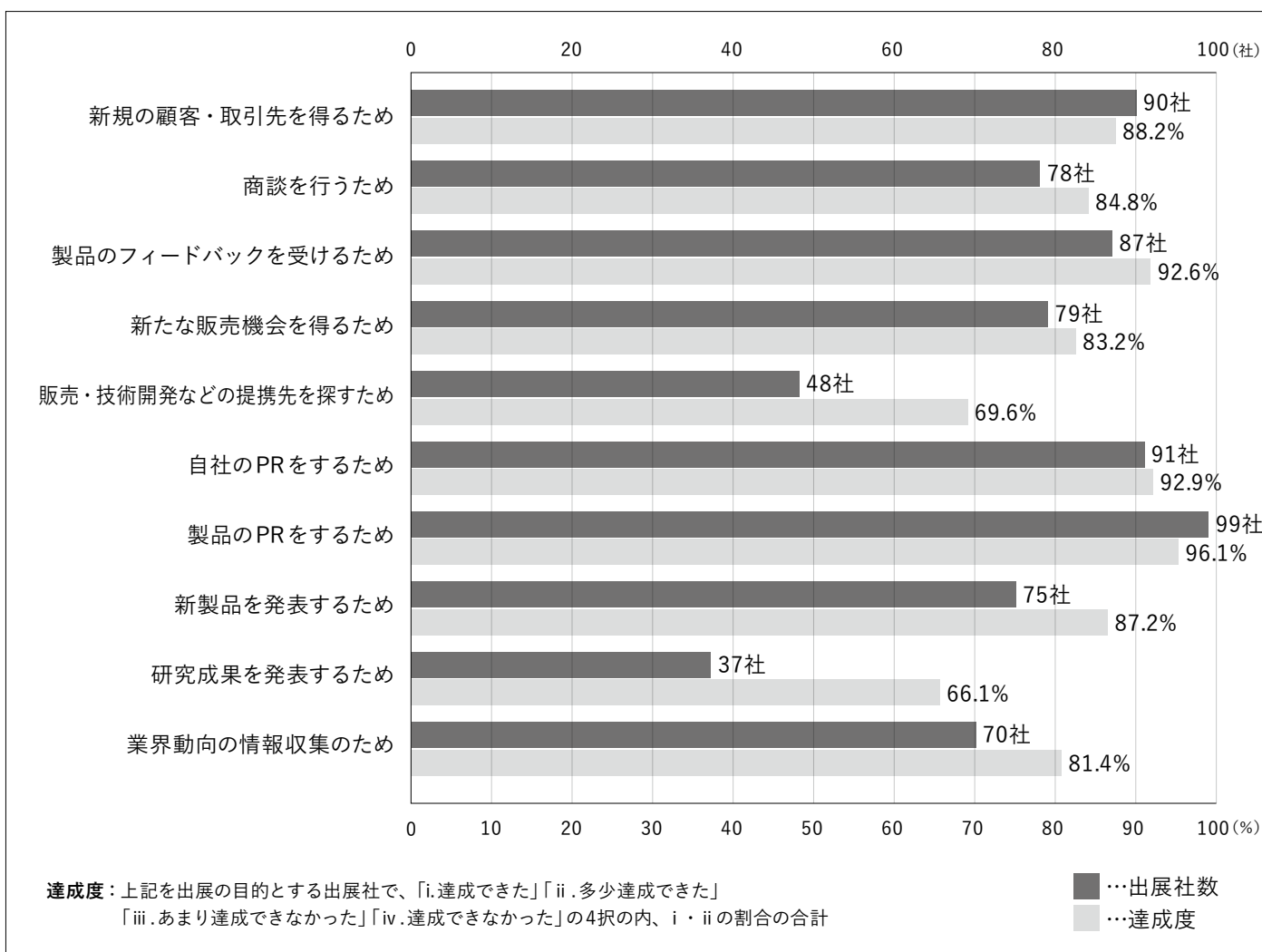
⑤H.C.R.に関するご意見・ご要望 (フリーアンサーを一部抜粋)

- ・こういった場でしか学べない実際の使用用途が知れる良い機会。
- ・体験ができるので、実践的に学びました。
- ・今、進めているプロジェクトや課題に関して、インスピレーションを感じたり発見がありました。
- ・出展社の思いを直接聞けてとても良かった。
- ・これだけの数の出展がある展示会が他にない。
- ・福祉用具やサービスについて新たな発見があり、とても充実していると感じました。
- ・選定、提案したいと思える商品が数多く出展されており、ご利用者へのよりよいサービスが提供できるのではないかと感じました。
- ・実はもっと知りたい事もあったけれど会場内に情報が多すぎて、全ては見きれなかった。
- ・普段利用しているメーカーの新商品や、注文しない商品も直接見て確認することができました。
- ・様々な機器が分野ごとに分類されていて見やすかった。
- ・展示だけでなく各ブースでの説明会などが充実しており、時間が足りないくらいでした。セミナーの内容もよかったです。
- ・心震える商品には出会えなかったが、多くの商品を見比べることが出来た。
- ・オムツ関係の製品をもっと見たいため、増やしてほしい。



12 出展社アンケート結果 [回答数 106件]

① H.C.R.2024への出展の目的と達成度[複数回答]



② ご来場者からの声や反応で印象的だったこと

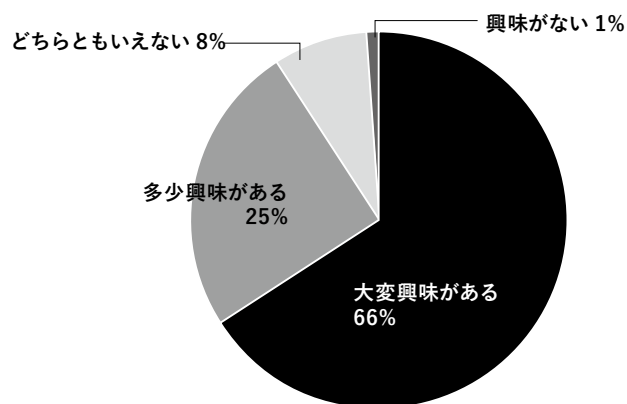
- ・このような製品/仕組みを探していました！というお声は嬉しかったです。
- ・試作機を参考出品したところ、評価や改善のポイント、市場に受け入れられるか否かの雰囲気など、多くの情報を得ることができました。
- ・90代の重度の麻痺が残る男性に自社の商品を使用したら、在宅に戻れて、利用者もご家族も関わった病院職員も驚いた。感謝しかない。と、PTさんがご報告にきてくれました。
- ・サンプルを貰ってからリピート買っていますよ、と再訪いただきました。
- ・海外からの視察の方から、輸出等、本国での販売等についての問い合わせを多くいただきました。
- ・具体的に利用者が機器を利用できるか試す良い機会となりました。
- ・ユーザーの方が直接お立ち寄りいただき、使用しての喜びの声を直接伺うことができました。
- ・出展ブースでミニセミナーやシステム操作体験会を実施し、多くの方の声を伺うことができました。
- ・私たちの商品コンセプトに共感をいただき、「今までありそうでなかった、貴社ならではのアイデア」といったお言葉をいただいたことです。



③ 次回H.C.R.2025に寄せてのご意見・ご要望

- ・規模感が縮小することなく、従来通り介護福祉がメインの展示会であることに期待。
- ・次回第52回H.C.R.2025に出展予定です。多くの来場者の集客の広報を引き続きよろしくお願いいたします。
- ・今年以上の来場者、出展社が多くなるよう期待しています。
- ・引き続き今以上のクオリティを維持継続していただきたいです。
- ・業界発展のための牽引役となってほしいです。
- ・継続出展している企業のPRをしてほしい。
- ・毎回たくさんの集客を期待できるので来年も出展させていただきたいです。
- ・海外の出展社が少ないことは、「国際」と呼ぶには残念なことと思います。海外企業の誘致も課題と思います。例えば、以前のように出展料の割引など出展社を増やす取り組みにも力を入れて欲しいです。

④ H.C.R.2025への出展予定



計91.0%の出展社に「次回出展に興味あり」と回答いただきました。